

Interview

ペット業界のはたらき方
～私の場合～

Vol.4

獣医業界の課題に挑戦

松山 ほうじょう動物クリニック
代表取締役 兼 クリニックマネジャー
VSJ 合同会社 Co-Founder・代表

三好 紀彰先生



Profile

2002年	麻布大学 獣医学部 獣医学科卒業
2002年～2010年	兵庫県の動物病院にて勤務医～副院長
2010年	松山 ほうじょう動物クリニック 副院長
2010年	VSJとして活動スタート
2014年	VSJ 合同会社設立
2015年	同クリニック代表就任
2017年	Bond University MBA 修了

『自分たちの子を安心して預けられる業界に』

Q.VS Jとは？またそのサービスを始めたきっかけは？

VSJ (Veterinary Services Japan <https://vsj-llc.net/>)とは、獣医師や動物看護師が、「自分たちの子を安心して預けられる業界に」するために、「こういうものがあっていいな」を形にしていくチームです。2010年にスペシャリストとジェネラリストを繋げることで、本物志向の教育が受けられるオンラインサービスの提供を行ったことが始まりでした。

ただ、2002年に獣医師になり臨床獣医師として勤務している頃には、このようなサービスを提供しようという考えは全くありませんでした。

もともと私が獣医師を目指したのは、人間からの影響・被害を受けている動物を助けるため、特に野生動物を助けるためでした。しかし大学在学中に、いわゆる「ペット」と言われる動物たちこそ、生まれてから死ぬまでのほぼ全てを人間に委ねられているのだと感じ、小動物分野の臨床獣医師になると決めました。就職先を探すときには、小動物臨床だけでなく、野生動物の保護を行っている病院にも見学に行きましたが、まずは自分自身が動物を助けられる知識・技術を徹底的に身に付けなければ話にならないと考え、それを学ばせてもらえると感じた兵庫県の動物病院に就職、勤務医として約8年間勤め、副院長という貴重な経験までさせていただきました。そののち地元愛媛の動物医療に貢献すべく、父が院長をしていた動物病院に勤務医・副院長として戻りました。

臨床獣医師として計10年ほど没頭する間で、業界における獣医師や動物看護師の知識・技術の「ばらつき」の多さ、そしてその習得や積み上げの方法が「その人次第」になっているという課題が見えてきました。そして、自分が一人の飼い主さんだったら安心して僕らの業界に自分の子を預けられるだろうか、と疑問に思いました。

ただ、僕らの業界の方々は皆、思いもあり、努力もしており、本当に皆頑張っています。…とすると、その努力が報われない原因は業界全体の『教育システム』の課題なのだというに行き着きました。

この課題は、2010年に関西から四国というより地方に移ることでより明確に感じとることができました。地方になれば、なおさらセミナーなどの継続教育を受ける機会は格段に減るのです。ただしこれは、地方に限った話でもなく都市部においても開業後の獣医師はしばらく病院を離れることができない、また自分だけで解決できない症例があっても身近な友人にしか相談できない、という状況がありました。

さらにその頃、米国獣医眼科専門医を取得するために渡米していた大学の同級生の辻田裕規獣医師(現VSJ共同代表)より、留学先のアメリカからせっかく学んでいる知識を日本に還元できる場所がない、という課題を教えてくださいました。

2010年当時、FacebookをはじめとしたSNSの認知も増え、インターネット通信速度も安定しつつあったため、それならば、「オンライン」で獣医師(ジェネラリスト、スペシャリスト)が相談できる場所そして勉強できる場所をつくれば、現場の獣医師も自信

をもって診療に向かい、もっと助かる動物が増えるのではと考えオンラインのサービスをスタートしました。

Q.VS Jを起業したきっかけは？

はい。VSJは「獣医業界を自分たちの子を安心して預けられる業界にしたい」という目的を持っていますが、そのために解決すべき課題のひとつである『教育システム』については先程触れました。もう一つの課題の柱が『マネジメント』と考えています。

よく「チーム」医療という言葉が使われていますが、動物医療においてはまだまだ「チーム」ではなく「個」として日々の業務をこなしている状況だと思います。つまり、動物病院は「1+1が2、または2以下」になっているのではないかなと思います。

私は、中学生のころから大学生までバレーボールをやっていたのですが、バレーボールは、レシーバー、セッター、スパイカーとワンプレーに最低でも3人が関わらないと成り立たない、特にチームワークが要求される競技です。また、プロのスポーツの世界にはプレイヤーだけでなく、コーチや監督という役割が必ずあり、明確に役割分担が決まっています。

私自身も臨床をやりながら、後輩をうまく導いてあげることができず四苦八苦し、それまで避けていた医学・獣医学以外の書物などを手に取ったという経緯がありました。そこからチームについて探求するようになり、その中でチームワークにおけるキーワードは、「マネジメント」という一言に集約されることを知りました。そして、我々の業界にはつまり監督・コーチという役割がほぼ不在なのだ、という結論に至りました。

このように、「教育」と「マネジメント」が今の獣医業界の課題と捉え、そこにもっと取り組むことで「自分たちの子を安心して預けられる業界に」なるのではないかと考えました。仮説が立ったならば、まず率先垂範せねばなりません。自身がこだわってきた現場・コートから離れ、監督、チーム作りという仕事を専門とすること。そしてその概念を業界に伝えていく。そのためには、まずしっかりとマネジメントを学ぼうと思い、MBA(経営学修士)の資格取得を決めました。

3年半かかってしまいました。2017年に豪州のBond大学MBAを修了することができました。



Q.VS Jサミットとは？



2010年からFacebook上にて症例のディスカッション、そしてオンラインレクチャーなどを行ってきましたが、情熱を持った人は各地にいるのだなということが解ってきました。

ただ、意外にもそういった方々が学術以外の「思い」を語り合う機会・場所はないと思ったことがVSJサミットを企画したきっかけです。学術を主とした学会やセミナーでは顔見知りの人たちで集まることが多いですし、講師の方同士も語り合う機会はあまり多くはないようでした。

前述の共同代表の辻田と、「思いを持つ人たちがFace to Faceで集まればなにかが起ころ」のではと考え、ぜひ業界の未来を語る集まりをやってみようとなりました。なので、VSJサミットの一貫したコンセプトは「つながる。」とし、第1回目より我々運営はもちろんのこと、スピーカー・モデレーターの方々もありがたいことに、有志・ボランティアで

参加頂いています。

Q. 動物看護師の今後について

これから我々の業界が動物看護師さんなくして良くなっていくことはないと思っています。過去3回のVSJサミットの終了後アンケートでも、みなさんの関心が高いセッションは動物看護師の将来についてでした。私は現在、非常勤で動物看護学生の講師も

していますが、「動物看護師として一生働いているイメージは持てない。」という学生がとても多いことに驚きます。動物看護師が一生の仕事になっていくためには大きく2つ必要です。

まずは動物看護師さん自身のメンタリティと技術力をあげることに。次に、働き続け、成長し続けられるための受け皿をわれわれ動物病院経営者がきちんと整備していくことです。

これらに対してVSJがすべきこととして、まず前者においては、臨床病理科の小笠原聖悟先生や動物行動科の尾形庭子先生など、動物看護師の教育にも情熱を注いでいるスペシャリストの方々と協業し教育コース設計にチャレンジしています。

後者においては先程お話しした「マネジメント」に尽きます。ただ動物病院経営者はマネジメントをなかなか学べる場所・機会が少ないと思っています。ここに対して、VSJでは経営者・マネジャー向けの教育コースや、病院に対して直接のマネジメントサポートを行っていきます。これらの取り組みにより、動物看護師さんが活躍する業界になると信じています。

Q. 今後、力をいれていきたいこと

今年から来年にかけて「VSJ COLLEGE」を展開していきます。単発のレクチャーをつないでいくのではなくオンライン大学のようなものをイメージしていて、例えば6カ月で眼科のベーシックコースの単位を取るという形です。単科生もOKですが、数年間で複数の科を修了し、卒業!というのもいいですね。私が臨床をやっていて、枝葉のパターンで覚えてしまっていることが多いと自覚しました。それはそれで大切なのですが、一通り診療や手術ができるようになっての解剖や生理学、病態生理学を理解して薬を選択するとか、改めて基礎からしっかり学ぶ必要があると感じました。Update セミナーなどのほうが視聴者の反応は良いのですが、基礎からしっかり学べる、そのようなサービスは少ないですし自分たちがやっていく価値があるところかなと思ったんです。そのような基礎もしっかりと学べるようなコース設計で多くの専門科を網羅できるようにプログラムを作成する予定です。

Q. 今後の動物病院に必要なこと

目的に共鳴し、そして同じ目標に向かっていくのが「チーム」の定義なのですが、目的、つまり「何のため・誰のため」をリーダーが明確化・共有せず、スタッフを働き手だけとして集めるとベクトルがバラバラなのは当然で問題は絶えません。例えば人間関係という表面上のキーワードが原因で辞めてしまったりすることが動物病院だけでなく一般の会社でも多いと思います。

本来、組織とは目的や目標を定めて、それに賛同してくれる人が集まり進んでいく場所です。今の国が行っている働き方改革は就業時間など枝葉のところばかり着目されて進んでいますね。私はそこを改革しても、現状は変わらないと思います。つまり「やりがい」の話なのです。

具体的に目的を共有し、チームで進むために私のクリニックでは、朝礼では全員で理念を読み上げ、また月に一回の全体会議には病院のビジョンなどについて勉強会をしています。また、それとは別に若手スタッフ向けに「働き方」「生き方」「考え方」などの本を一章ずつ読み上げお互いがアウトプットしたりする「心の勉強会」というものも開催しています。技術職なので技の部分は勉強する機会が多いと思うのですが、心技体の心、つまり理念の部分がとても大事なため、心の部分の学びの時間をきちんと技の部分とはわけて時間をとっています。



Q. 業界へのメッセージ

自分がスタッフなら、働き続けたいと思う動物病院・クリニックは、とてもシンプルです。それは、ただトップが「動物のために」と言い続けてくれる病院です。だから自分のクリニックやVSJではそれを自分がずっと言い続けようと思っています。

やはり仕事は、まず相手があってはじめて成り立つものですし、そもそも動物から僕たちがもらっているものは計り知れませんが、お返しをしてもいいじゃないですか。

そしてこの「動物のために」とは、いま目の前にいる動物だけでなく、未来の動物も助け「続ける」ということです。それを一心に思うことで働くスタッフも、自らを成長させよう、身体を休めよう、家庭もちゃんと安定させよう、ということに本気になり、物心ともに豊かになっていきます。そして、そういった人は社会にも貢献できる。

これを私は「ワーク・ライフ・ソーシャル スパイラル」と呼んでいます。つまり、3方良しですね。プロフェッショナリズムとも言える

と思います。

ちなみに昨今のワーク・ライフ「バランス」という概念では、仕事もちゃんとしないと…人生も楽しまないと…とベクトルがバラつき、結果自身を追い詰めている人が多い気がします。一生バランスを取り続けることができるほど、器用な人は多く無いのではないのでしょうか。もっとシンプルなほうがいいと思っています。

教育もマネジメントにおいても、昨今のトレンドのみに流されることなく、100年前も、100年後にも通じる原理原則の追求が重要ではないでしょうか。

これからも多くの方と侃々諤々の議論を交わし、切磋琢磨しながら「自分たちの子を安心して預けられる業界に」向かい人生を捧げていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

